

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成30年12月21日
タイトル	「くわい」や農業用水について出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成30年11月27日（火）福山市立川口小学校で5年生87人に水土里ネット福山より「くわい」や「農業用水」について出前授業をしました。

川口小学校では毎年5年生が校庭にあるミニ田んぼでくわいを栽培し、くわい栽培を通じて様々な学習をしておられ、その一環として出前授業を行いました。

5、6時間目に5年生全員が集まり、福山市地産地消推進課と水土里ネット福山より出前授業をしました。

まず、各教室で川口小学校が区域になっている「芦田川用水」という農業用水路に生息する絶滅危惧種の「スイゲンゼニタナゴ」のペーパークラフトの製作をしました。各教室を回り子ども達が色を塗ったり組み立てたりしているのを手伝いながら交流を深めました。



「川口の水路にもスイゲンゼニタナゴおるのかな。」と言いながら、みんなで助け合って製作しました。



6時間目は多目的教室へ移動し、まず地産地消推進課から地産地消について説明され、地産地消に関するクイズをしました。また、子ども達が栽培している「くわい」や地域で生産されている食材を使って給食メニューを考えているため、参考になるように冬野菜を紹介されました。



元気いっぱいクイズに答える子ども達！



水土里ネット福山からは、くわいの収穫時には水圧を利用して収穫することや出荷の様子など写真を使って説明し、農業には水が欠かせないことや農業用水路について説明しました。遠く離れた場所から取水していることや除塵機などの施設について説明すると「えーあんなに山の方から水が来るん。」と驚き、取水も排水も川口町のすぐ近くの芦田川からだと思っていた子どもが多くびっくりしていました。そして、その農業用水路に「スイゲンゼニタナゴ」という絶滅危惧種の魚が生息しているということに素直に驚いてくれ「みんなで守らないといけない。」と感じてくれたようでした。

**** 子ども達からの質問 ****

Q 学校で栽培しているくわいの葉が枯れてるけど大丈夫ですか？

A この時期になると地上の茎や葉は枯れます。収穫の時は茎や葉を刈り取って、土の中の茎やくわいを掘り起こして収穫するから大丈夫です。

Q くわいを収穫したら保存はどうすればいいですか。

A くわいを収穫したら水に浸け、毎日水を交換しなければすぐに傷んでしまいます。みなさんが調理実習する直前に収穫することをお勧めします。

Q くわい農家の人はずなぜ12月までしか収穫しないのですか。

A くわいは正月のおせち料理の食材で、お正月までに出荷が終わるのでそれまでにすべて収穫してまいります。

今後は、学校のくわいの収穫、くわいの調理実習をする予定となっており、水土里ネット福山は、引き続き農業体験に協力することで21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。